

島 高 校 同 窓 会 報

昭 和 32 年 8 月 31 日

柏 豊

会報60号記念

豊島 高校 同窓会報

昨年度の動きと本年度総会

盛会だった二十周年記念祭
総会も円遊会形式で



昭和29年に建てられた図書館は今も現役



創刊時にあった軽井沢の寮

発行所
都立豊島高校同窓会
豊島区豊島4-11-1
電話 03-3711-4111
電 報 5211
印刷所 練馬区
練馬区



女優魂

女優として輝き続ける
香川京子さん(高女9回)

女優の香川京子さん(高女9回)が表紙を飾った号も

Contents

校長・会長挨拶	P 2
若林雅人さん(高校35回) アートとフラメンコギターに魅せられて	3
学校の話 『ソフトウェア創作コンテストで最優秀賞』、進路状況・部活動紹介	4~5
会報は60号を迎えました!	6
豊島高校の紅白の梅。柏豊会の運営をより身近に	7
同期会OB・OG会だより	8~10
柏豊会からのお知らせ	10
会計・代議員会報告、教職員移動、幹事一覧	11
佐藤美奈子さん(高女8回)水墨画・布絵、編集後記、奥付	12

6月7日・同窓会 年に一度

親 睦 会

- ☆2015年(平成27年)6月7日(日)午後1時から・豊島高校にて
- ☆予約不要・お誘い合わせてご参加下さい。
- ☆おいしい料理と抽選会有!
- ☆参加費2,000円但し卒業4年以内の会員は無料!
- 2012年(平成24年)3月以降卒業の方

ホームページもご覧ください

柏豊会の最新情報を発信しております。
ぜひアクセスを!



下記アドレスを入力ください

<http://www.hakuhou.biz>

お問い合わせはmember@hakuhou.biz



学校の近況から



豊島高校校長 林 眞司

柏豊会の皆様には、ご清祥のこととお慶び申し上げます。また日頃より本校の教育にご理解と多大なるご支援を賜り、感謝申し上げます。有難うございます。さて、去る4月1日に小宮山前校長のあとを受けて着任いたしました林でございます。小宮山前校長からは豊島高校の生徒は真面目で大人しく、落ち着いた雰囲気のある学校である。また、柏豊会の皆様にはこれまで様々な面で学校にご支援いただき、お世話になってきたので、今後ともよろしく願いますと託されました。

平成27年度は本校が開校して80年目を迎えます。校是である「至誠」のもと、長い年月が現在の豊島高校を作り上げてきたのだと考えております。その上で、現在はこうして先達が積み重ねてきた歴史と伝統に、新しい時代にあつた教育が求められてきています。例えば、センター試験に代わり、大学入学希望者学力評価テスト(仮称)の導入が予定されております。また、学習指導要領の見直しも進められてきております。大学入試では「知識・技能」のみならず、「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探求し、成果等を表現するために

必要な思考力・判断力・表現力等の能力」や主体性をもって多様な人々と協働する態度などの真の学力を評価するものになっていきます。学校では授業を通じて知識を与えるだけでなく、アクティブラーニングなど、生徒の学ぶ意欲を高めていくことが求められてきております。「やればできる」といった可能性をもった生徒が豊島高校には大勢おります。そうした生徒に「やったらできた」という経験を積むことで、意欲的に進んでいく真の学力をつけさせていきたいと考えております。本校には歩こう会、弁論大会、舞台



祭など他の高校にはない独自の表現力や主体性を求められる行事が伝統的にあり、まさに時代の風は豊島高校に吹いてきています。今後も教職員一同、生徒の成長のため、全力を挙げて日々の教育活動にあたってまいります。今後とも本校へのご支援・ご協力をお願いするとともに、会員の皆様お一人一人のご活躍、ご多幸を祈念申し上げます。



至誠の道を永遠に



柏豊会会長 鈴木(豊田)優子 (高校14回)

同窓会の皆様には、ますますお元気で多方面にご活躍のこととお慶び申し上げます。終戦から70年、阪神淡路大震災から20年を迎えます。そして東日本大震災からは4年、今着々と復興目覚ましく、新しい町づくりが進んでいく一方、まだまだ原発事故で戻れず、仮設住宅で精神的にも追いつめられているとの報道を見る度、復興はまだまだと痛切に感じます。一日も早い復興を望むと共に心よりお見舞い申し上げます。これからの地道に長く応援させて頂きたいと思っております。

今年も入学当初からの先生方の熱意あふれるご指導の結果国公立、有名校への合格率も高く又学問だけでなく社会面への姿勢も指導して頂き感謝しています。近所の方から「近くを掃除している高校生が豊島高校と聞き、さすがと思つたわ」と言われ自分の事の様に嬉しく思つたものです。又文化祭での団結した姿等、先輩としての喜びです。初代群馬県令として活躍した榊取素彦(かとりもとひこ)は総ての先頭に立ち範を示し、閉場の危機にさらされた富岡製糸場の危機を自ら体を張って救い又道徳の教科書を編さん、序文の執筆もしたりと共に歩み汗する彼は県民に「至誠の人」と慕われました。吉田松陰も捕らわれる直前の手紙に「至誠にして動かざる者は未だ之(こ)れあらざ

るなり」と記し、西郷隆盛は「人を咎めず、我が誠が足らざるを尋ねるべし」と、かの英雄たちは何が最後に人の心を動かすかを知つて信頼を築き味方をつくるとの「誠実」に勝る武器はないと語っています。私達豊島生も至誠の道が永遠不変の原則と思ひ、共に歩んで行きたいと思ひます。

同窓会も今後の発展の為、様々な方法で有意義に進めて行ける様、プロジェクトチームを立ち上げ、規約改定を検討、卒業生が全員参加の総会をと思つていきます。詳細は7頁をご覧ください。昨年からは今年にかけ「イスラム国」による悲惨な事件が相次ぎ、日本もお二人の方の尊い生命が奪われる痛恨の悲劇がありました。本当にまさか!の言葉以外に出て来ない事件でした。アプリ力ではエボラ出血熱、韓国セウォル号沈没と痛ましい事件が続きました。日本でも御嶽山噴火で多数の方々が自然災害の犠牲となられました。そんな中、LED(卒業記念品)の研究でノーベル賞に3人の方が輝き又テニスの錦織選手の快挙もありました。今年も同窓会として母校への様々な援助や文化財保護への支援を致します。文化祭では同窓会サロンの部屋を設け「ハートtoハート」の講演、卒業生の方々の記念誌他の展示等あり、懐かしい出合いの場としてぜひお待ちしております。

アートと フラメンコギターに魅せられて

若林 雅人 (高校35回)

わたしにとって豊島高校といえは放課後の美術室です。教室に入ると右側の窓からは向かいの各教室が一望でき、その屋上では発声練習をしている演劇部、左側の窓からはテニス部の元気な掛け声と軟式ボールの「ポーン、ポーン」という音、テニスコート横の建物ではワンダーフォーゲル部が階段を昇り降り、校庭にこだまするサッカー部の声、その一番奥にある平屋の建物からはブラスバンド部の演奏が聞こえてきました。

夏の晴れた日に窓を全開にして風に吹かれてみると、気分はすっかりどこかのリゾート地。教室の椅子を並べ、横になつて本など読んでいると、教官室からでてきた佐藤龍一先生が「若林、なうにやっつてんだ？」と苦笑いしながらコーヒを入れてくださったりしたものです。最上階、渡り廊下の先は天国でした。

とにかく生意気な困った生徒でした。なにしろ勉強をしない、先生に悪態をつく、美術部の部長なのに美術室でギターばかり弾いている、自転車の荷台に大きなラジカセをくくりつけてハードロックを流しながらの登下校。なにをしながら来ているのか、今思えば本人にもよくわかりませんでした。でも友人たちに恵まれ、卒業後ずっと付いてきてくれた妻と出会ったのも豊島高校でした。

当時、わたしたちは「新人類」と呼ばれ、バブル景気もあって定職に就かないで日々を生きる「フリーター」という言葉も生まれました。高校卒業後、わたしは様々な仕事をしながら20代は海外留学、30代はアート、40代はフラメンコの活動をしてきました。自分の関心のおもむくまま好き勝手に生きてきましたが、今改めて思うのは人と出会うことの魅力

と不思議です。

21歳の春、古典絵画技法の勉強を目的に到着したマドリッドで最初に出会ったのは、フラメンコの唄や文筆家として活躍する画家の堀越千秋さん。堀越さんとは二十歳近い年齢差がありました。どういふ訳かすぐに意気投合し、毎日のように連絡をとりあう仲になりました。彼に紹介されて、当時「カディスの赤い星」で直木賞を受賞したばかりの逢坂剛さんと現地地で活躍しているフラメンコのアーティストたちと知り合うことになり、屋は古典絵画技法の研究、夜になると友人たちとフラメンコギターを弾く日々を過ごしながら、この二つが一つになる作品はできないか、描く方法はないかと思案する毎日でした。

わたしが住んでいたブラド美術館裏のマンションに、東京造形大学教授の彫刻家、三木俊治さんが住み始め、1年後に帰国した彼が送ってくれた本が現代美術評論家、中村信夫さんの「少年アート」。中村さんに長年の謎だった現代美術を教えてもらいたくて、3年間滞在したマドリッドから帰国。彼の企画した北九州市での現代美術セミナー「CASA」に参加。その時に教えた来ていたダブリンのアーティスト、ナイジェル・ロルフ氏の推薦でロンドンのチェルシーカレッジ大学院彫刻科へ。豊島高校卒業しか学歴がなかったわたしは特例という形で大学院入学でした。

ロンドンの学生寮歓迎会で紹介された立派な白髭の老人は「進化論」のチャールズ・ダーウィンの孫。彼がアフリカで撮影した「白いシマウマ」の8ミリ映像を、本人の解説を聞きながら皆で見ました。教科書から出てきたみだいな出来事に頭がクラクラしたものです。

当時のロンドンの美術教育は、絵画、彫刻というカテゴリーや手段より、作る目的や動機、意識を重視していました。なぜその表現方法でその素材を選択したのか。感覚的な発想や嗜好を一度原点に戻し、そこから改めて様々な表現の可能性を探りながら最終的な作品にしてゆく。それを言葉で説明することで自分でも再確認し、作品をより強いものにしてゆく。専門技術が必要であれば学内の職人が制作協力、技術指導をする。特に授業はなく、現場で活躍するアーティストや評論家たちが自分のスタジオに来て、制作中の作品を見ながら会話をするというスタイルでした。そんな自由な空気の中、彫刻科に在籍していたわたしはビデオ作品や絵画作品を作りながらギターを弾いていました。

大学院のスタジオはレンガ作りの体育館のような建物を板壁で仕切ったものなので、そこでギターを弾くと建物全体に音が響いてしまい誰もが迷惑。「ギターが弾けないと制作ができない」と教授に相談すると、制作スタジオとは別にわたし専用の音楽室を用意してくれたのは感動しました。卒業展ではニューテトギヤラリーに設置することを想定した水平回転型の円形エスカレーターとその実物大モデルを展示。マスター取得後、1年間の教員養成期間として2つの大学で教え、再び日本へ帰ることになるので、豊島高校美術室で過ごしていた美術と音楽の時間は、結局、30年後の現在に到るまで変わることなく続いたのでした。

豊島高校卒業間近のある日「君が卒業できるのは、美術の佐藤龍一先生のおかげなんだよ」と担任の真柴敬三先生が教えてくださった言葉を、話によると、わたし

しにさじをなげる先生方たちを佐藤先生は事ある毎に粘り強く説得してくださっていたのだそう。未だ恩返しもできないまま時間がアツという間に過ぎてしまいましたが、あの難しい時期におおらかな対応をしてくださった先生たち、この場を借りて改めて感謝いたします。ありがとうございます。



自転車楽器「セニョーラ・アルハンブラ」
東京 2006年



「マヌエル・アグヘタ来日公演」
下北沢タウンホール 2013年
© 高瀬友孝



自転車絵画「リバーサイド・サーキット」
ロンドン 1995年

略歴
：高校卒業後、ロスアンゼルス、マドリッド、ロンドンへ美術留学。
チェルシーカレッジ大学院彫刻科卒業後、現代美術センター CCA 北九州に参加のため帰国。ビデオアート上映会「ブレイク・イン・シアター」を、国際フォーラム、広島現代美術館、水戸芸術館、原美術館等、国内11会場で開催。その後、フラメンコギタリスト、CDプロデューサー、評論家として活動。日本語フラメンコの活性化を提唱し続け、2004年に発表した「スペインあいうえお」は、スペインの国民的ラジオ番組「ゴマエスプーマ」フラメンコ・コーナーのテーマ曲として近年まで放送された。2013年カンテヒターノ（ジブシーフラメンコの唄）の最高峰、マヌエル・アグヘタ氏の来日公演とCD「アグヘタ・エン・ハボン」の伴奏を担当。
2015年、株式会社ドワンゴとの企画で、初音ミクの「千本桜」フラメンコバージョンを発表。
ホームページ：http://www.masatowakabayashi.com

◆学校の話題◆

■立命館大学主催のソフトウェア
創作コンテストで最優秀賞!



今回最優秀賞を受賞した佐藤君

「あいちゃれ2014」というコンテストを皆さんはご存知でしょうか?これは、立命館大学が主催する全国高校・大学ソフトウェア創作コンテストのことで、母校の2年生佐藤君が「RealLet-Manu」という原稿用紙向けの文字認識(OCR)ソフトを出品、高校生の部で見事、最優秀賞に輝きました。

ゲーム系のプログラムの応募が多い高校生の部で純粋にアルゴリズムとエンジニアリングの課題に挑戦した佐藤君のソフトは多くの審査員をうならせ、同時に複数の協賛IT企業賞も獲得しました。喜びの佐藤君にお話を伺いました。

—昔からパソコンなど得意だったのですか?
—小学校の頃にパソコンでゲームを始めて、中学2年の時にプログラミングに興味を持って取り組んでから三年がたちました。
—そういうのは独学でやられたんですか?
—そうですね。
—母校には、パソコン関連の部活がある

—のですか?
—パソコン部があつて入っているんですけども、今回の件は個人で活動しています。
—授業では、そういったのはあるのですか?
—3年生から「情報」という科目があります。
—「あいちゃれ」に出場されたきっかけは?
—プログラミングを始めた頃から確信はないんですけども、この道で自分すごい能力があるのではないかと思つていて、でもそれを人に言つたつて信じてもらえないし、それじゃあ、難しい資格をとつたり大会で優勝したりすれば、他人にも自分は結構出来るぞということと言えるかなと思つて、大会に出たいなと思つたのがきっかけでした。
—世間に認めてもらいたい機会だと思つたのですか?
—そうですね、このテーマを選んだのは、簡単なゲームを作つて出すよりは、難しいテーマでレベルが高いのを作つたほうが勝ち易いのではないかと思つたからです。それで、書店に行つてパツと手にしたのがパターン認識という分野の「光学文字認識」という本でした。高校1年の秋くらいのことです。
—この「RealLet-Manu」(じつじんの意味ですか?)
—RealはRead(読む)、LetはLetter(文字)、Manuはmanuscript(原稿)という意味です。
—これは、我々が使うスキャンとは違うんですか?
—スキャンして画像が手に入りますが、画像なのでこれを編集しようと思つてもワードなどの文書ソフトでは編集できませんよね。これをプログラムが文字として読み取つて、ワードなどでも編集できる形にしてくれるということです。
—今までそういうのは、なかったんですか?

卒業生進路状況(豊島高校調べ)

進路別人数 (2015年3月卒業(高校67回生)278名)

		男	女	計	
四年制 大学	指定校推薦	6	13	19	223名 (80.2%)
	公募・AO	6	19	25	
	一般入試	89	90	179	
短期大学	指定校推薦	0	2	2	5名 (1.8%)
	公募・AO	0	0	0	
	一般入試	0	3	3	
専門学校	指定校推薦	0	0	0	22名 (7.9%)
	公募・AO	3	9	12	
	一般入試	3	7	10	
就職 その他	就職	0	0	0	28名 (10.1%)
	浪人	23	3	26	
	公務員	0	0	0	
	その他	1	1	2	

進路決定率(浪人等を含みません): 90.6%

最近5年の進路状況推移

卒業年月	卒業生数	大学	短大	専門	就職	その他
2011年3月	240	166	8	23	1	42
2012年3月	232	144	12	30	1	45
2013年3月	277	190	13	34	3	37
2014年3月	238	171	6	39	4	18
2015年3月	278	223	5	22	0	28

同窓会や豊島高校を騙った勧誘電話の報告が寄せられています。柏豊会では「営業・物品販売等の電話勧誘」「有料での広告・原稿募集」「同窓生の主催事業への後援・賛助」を行いませんのでご注意ください。不審な電話や勧誘行為を見聞きしたら「柏豊会」までぜひご連絡下さい。

あるにはあつたんですけど、原稿用紙が読めないという欠点がありました。
—企業も協賛されているコンテストということ、何かオフアワーがありましたか?
—作品自体を使いたいっていうのは今のところありませんが、会場にいた企業の方から見学に来ませんか?という話はありません。3社ほど見学は行かせて頂く予定です。また、光学文字認識の製品を開発している大手企業のグループの方から「紹介しますよ」という話があつたりしました。
—その中で良さそうな会社があつたら働いてみようかなと考えていたりしますか?
—今の段階では、例えば短期で働かせて頂けるならうれしいですが、まずは大学卒業してからを考えております。
—今後は大学に進学して、ソフト開発の道へ進みたいとの由。今後自分の選んだ世界でおおいに活躍されて、再び誌面を飾る日を楽しみにしています。

『あいちゃれ』のホームページより
<http://www.ict-challenger.jp/>



部活動紹介 (豊島高校PTA会報より・記事使用許諾済)

男子バスケットボール部

男子バスケットボール部は、現在、陶山先生のご指導のもと2年生5人、1年生17人、マネージャー4人の計26人で活動しています。平日の放課後練習に加え、土日はチーム練習だけでなく、練習試合を行っています。私たちはインターハイ出場という目標を掲げそれに向けて日々練習に励んでいます。特にチームとして大切にしていることは常に声を出し、試合と同じ緊張感を作るということです。今後とも応援宜しくお願いします。



女子バスケットボール部

女子バスケットボール部は、2年生8人1年生12人計20人で顧問の緒方先生の指導のもと週6日活動しています。目標はベスト8になることです。普段から部員同士仲が良く何でも言い合える関係なので、部活の中でもたくさんコミュニケーションをとり合いながら、チーム一丸となり目標に向かい練習に励んでいます。昨年の新人戦では悔しい結果となってしまったものの、気持ちを新たに日々の努力を怠らず練習に取り組んでいます。



男子バレーボール部

男子バレーボール部は顧問の滝澤先生をはじめとする先生方と2年生5人、1年生8人マネージャー3人で活動しています。練習日は週6日、土日は練習試合等を行い、大会に臨んでいます。私たちの目標は大会で4回戦に 진출することです。そのために日々の練習は一つ一つ集中して練習に取り組むようにはしています。まだ目標に届く結果は残せていませんが、よりよい結果が出るように頑張っていきたいと思います。応援宜しくお願いします。



女子バレーボール部

女子バレーボール部は、2年生6人、1年生6人の計12人で活動しています。活動日は週6日、土日祝日には練習試合を組み遠征することが多いです。限られた練習時間の中で色々工夫をしながら、練習の質を高めています。「ベスト16」を目標とし、顧問の野村先生、雨宮先生、卒業生の方々や先輩方のご指導のもと、横断幕にも掲げている「限界突破」をテーマにして、技術的にも精神的にも強くなるために、日々練習に励んでいます。



バドミントン部

バドミントン部は、顧問の五味先生、コーチやOBの指導のもと、1年生10人、2年生13人の計23人で男女共に活動しています。活動日は週6日、平日はランニング等の体作り、体育館練習等を行い、土日は体育館練習や他校との練習試合を行っています。今年度の女子の成績は、団体戦は東ブロックでベスト8、個人戦は都ベスト32と目標である「都ベスト8」に達していませんが、男女共に上を目指し、日々練習に励んでいます。



軟式野球部

軟式野球部は、2年生5人、1年生11人、マネージャー6人が監督西村先生、助監督竹居先生・渡邊先生のご指導のもとで活動しています。活動日は月・火・木がグラウンド練習、土日は練習試合に加え練習試合、月曜は朝練を行っています。また、春、夏、秋には大会があり、夏の大会ではベスト16に入ることができました。これからもチーム、個人の成長のために各自が意識を高め、目標である関東大会に向かって練習に励んでいきたいと思います。



男子硬式テニス部

男子硬式テニス部は、2年生16人、1年生20人、マネージャー6人の計42人で週6日活動しています。平日は女子コート3面あるコートに分けて使用しています。また、土日祝日はOBさんがコーチに来て下さるなど、とても充実した練習をしています。夏休みには合宿があり、厳しい練習をみんなで乗り越えることでさらに部活が一丸となります。日々頑張っています。これからもしっかり練習していきます。応援宜しくお願いします。



女子硬式テニス部

女子硬式テニス部は、1年生13人、2年生10人で活動している部活です。週6日、テニスコートでの活動は寒かったり暑かったり小雨だったりしますが、大人数だからそこそこのぎやかさと個人の向上心で成り立っています。豊島高校のテニス部はコーチ数やコート、OB・OGさんなど恵まれた環境で出来ているので、そのことを忘れずにとこれからも頑張りたいと思います。よろしくお祈りします。



ソフトボール部

ソフトボール部は、プレーヤー11人、マネージャー1人の計12人で、週4回活動しています。部員のほとんどがソフトボール初心者ですが、顧問の中村先生、島藤先生に教えて頂きながら部員一人一人の長所を生かし、「自分たちで考える」練習をしています。目標は都大会へ出場することですが、まずは地区予選で一勝できるように日々努力をしています。今まっすぐ、辛いこともありましたが、みんな乗り越えてきました。



サッカー部

サッカー部では、1年生20人、2年生28人、マネージャー6人の計63人で、月曜日以外の週6日活動しています。「サッカーのプレーには人間性がダイレクトに現れる。」をモットーに、礼儀正しく規則正しい学校生活を心がけています。豊島生として誇りを持ち、勉強、サッカーに日々努力しています。



陸上部

陸上部は現在21人で木・日を除く週5で活動しています。練習では短距離・中長距離・走り幅跳び・砲丸投など各種目に分かれお互いを仲間であり、良きライバルとして日々努力しています。大会は支部新人戦や豊島新島駅伝などに出場しています。



卓球部

豊島高校の卓球部は他の学校には無い気持ちでやっていると思います。練習日数が多いという点もそうですが、一番大きく違うと思うのは「やる気」です。この気持ちに対しては、どの部活よりも大切にしていると思います。この気持ちはこれから先もとても大切なものだと思うので丁寧にしっかりと伝えて、次に繋ぎたい。部活をより良く皆が笑って真面目にやる時はやれるようにして安心して後輩に任せられるようにしていきたいと思っています。



科学部

科学部は、3年生6人、2年生7人、1年生5人の総勢18人で、毎週火水金曜日に活動しています。活動内容は主に科学的探究で、それらの結果を踏まえて、自分なりに考察し、まとめるといったことをしています。まとめた結果などは、その年の文芸文化祭で発表したりしてしまっています。これからの科学部一同、さまざまな科学的探究を行っていきまします。応援宜しくお願いします。



演劇部

私たち演劇部は、現在1年生4人、2年生3人の計7人で活動をしています。少ない人数ながらも4回の公演を成功させるために、日々舞台作りには励んでいます。



茶道部

茶道部は、2年生11名、1年生6名で活動しています。活動日は毎週金曜日で大日本茶道学会の講師の先生に指導していただいております。主な活動内容は、年2回ある茶会に向けての礼儀作法と文化祭準備のための稽古を行っています。茶会は、毎年10月に開催される「東京大茶会」と12月に開催される「冬の茶会」に参加させていただいたので、お客様に楽しんでいただく茶席がより良いとなるよう、日々の稽古に励んでいます。



吹奏楽部

吹奏楽部は、現在1年生41人、2年生40人、3年生36人の総勢117人で活動しています。夏の東京都高等学校吹奏楽コンクールでは4年連続金賞を頂くことができました。去る3月22日に板橋文化会館にて第32回定期演奏会を行いました。今までの活動を振り返り、今後の活動に挑戦していくこと、皆様の応援を頂戴し、皆様に楽しんで頂戴しました。



美術部

美術部は、現在1年生5名、2年生6名(3年生4名)で週2回、美術室で活動しています。毎年夏頃に学展、冬頃に中央展の年2回、いわば絵の大会に出展しています。先生や友達、先輩達と自分で描いた絵を批評し合い、来年度に向けて更なる成長を目指すという、まさに切磋琢磨し合って技術を高めるという部活動です。文化祭では、トンボ玉作りなど、普段の絵から少し離れた作品を販売する等、部活動でしかできないような制作もあります。



料理研究部

料理研究部は、火曜日に南棟1階食物室にて活動しています。昨年はビスケット、ミネストローネ、トマトスバゲッティ、クッキー、スイートポテトなどを作りました。メニューは部長と先生が相談して決めています。文化祭ではタピオカとクッキーを販売し、すぐに完売するほどの人気でしたが、買った人が「おいしい」と言ってくれたので頑張ったのが嬉しかったです。これからもさまざまな料理やお菓子を作っていききたいと思います。



パソコン部

パソコン部は、毎週水曜日に活動しています。部員同士の仲が良く、和気あいあいとした雰囲気の中で活動しています。活動内容は顧問の黒田先生に教わりながら、プログラムを組み学習をしています。



マジック同好会

部員数は男子13人、女子8人、合計21人です。活動日は火曜日と金曜日で、活動場所は2階生物室です。活動内容は基礎練習(カード・コイン・その他)、文化祭・学校説明会・地域の児童館などの公演です。特色は、先輩後輩の仲がよいので楽しくマジックが学べ、最初は下手な人もすぐに上手になります。さらに、マジックを通して相手とのコミュニケーションなどの他のスキルもアップします。



漫画イラスト同好会

漫画イラスト同好会は、総勢25人の部員で活動しています。主な活動日は毎週水曜日と木曜日、活動内容は年に2回の部誌の発行と年に2回の部内誌の発行となっています。また、普段は美術室で絵を描いたり話したりと、楽しく活動しています。



会報は60号を迎えました!

今回の表紙は、会報60号を記念して、創刊号を背景にしてみました。

創刊号は1957(昭和32)年8月31日発行で、当時は「柏豊会」という会名がつけられる前で、単に「豊島高校同窓会報」という名称でした。

大きさはB4サイズで、4ページで構成。当然モノクロ印刷で、紙質も半紙のようだったので、恐らく発行当時はもつと白かったと思われそうですが、現存している創刊号は表紙掲載のようになり、かなり黄ばんでしまっています。それから58年もの間、同窓会報は脈々と発行され、ついに60号を数えるに至りました。今回は、その会報についてちよつと振り返ってみたいと思います。

「柏豊」の名は1961年より

現在のように、会報が「柏豊」となったのは、1961(昭和36)年の第6号からであり、その会報を紐解くと次のような記述があります。(原文転載)

会名決まる
柏豊時代にならったわけでもありませんが、我らの豊島高校同窓会名も「柏豊会」と昨年五月の總會で決まりました。いくつか案が出たのですが「柏豊」が一番多数でこれに決定。いさつか言いにくい名のようにも思いますが、以後お馴じみに願います。豊島高校の校章の柏に、豊島の上半分がくつついて出来たというのがこの名の出世の由来でしょう。

なんととはがきの会報も!

B4サイズ4ページでスタートした会報は、1960(昭和35)年の第五号からB5サイズに変更、ページ数は4、12ページと年によって増減はあるものの、2012(平成24)年発行の57号までこのスタイルが踏襲されます。

この間、1977(昭和52)年には、なんととはがきの会報も!これは、前年に郵便料金の改定があり、それまで封書20円だったのがなんと倍以上の

50円になってしまったことにより、さすがに会報を心待ちにしていた方からはクレームもあつたとの事で(翌年の会報による)、それをきっかけに「会報の費用負担のお願い」という現在の「通信協力費」の制度がスタートしたのでした。

会報はどうやって作られるの?

以前の会報が作られる際の苦労話は、元編集長の倉島須美子さん(高校8回)の手記をご覧頂くとしまして、現在はどうやって作られているのかと言いますと、まず掲載内容について幹事会で話し合うというところは昔と変わりありません。幹事会で各幹事が持ち寄った情報を基に活躍をしている同窓生などをピックアップし、実際にインタビューをしたり、記事を集めていきます。

集めた記事を編集していくわけですが、ちよつと前までは、発行者の都合で、1ページあたりの文字数の制限があり、これに収めるため、常にレイアウト用紙とにらめっこしながら、「ここを○字削らなきゃ」などと幹事は格闘しておりました。

現在の発行者になってからはこの制限がなくなり、文章と写真を入稿すれば業者のほうでレイアウトもやってくれるようになります。幹事は楽になりました。ただし、文章が長いと文字を小さくして全文を載せるようにもできるため「用紙は大きくなったのに文字が小さくなった」とご意見を頂くことも。今後は気を付けたいと思います。そして、今の業者にしてA4サイズで折らずに送付できるように、全てのページをカラーにすることも同時に実現したのでした。

なお、倉島さんの時代に苦労していた発送作業そのものは、20年ほど前から封筒詰めなどをしてくれる専門業者に依頼するようになり、幹事の負担は軽減されています(現在は発行者が一括で行っています)。このように、変遷を遂げてきた会報ですが、これからも益々充実した紙面をお送りできるように、幹事一同精進してまいりますので、会員の皆様も情報提供及び通信協力費などご協力をお願い致します。



→1998(平成10)年の第45号から表紙と裏表紙がカラーに!この時表紙を飾ったのは、歌舞伎で活躍されている中村京蔵さん(本名両川宗男さん、高校26回)。

その艶やかさをぜひカラーでお伝えしたいと幹事の思いからカラー化が実現。以後表紙と裏表紙がカラーとなります。

「柏豊」の思い出話

「柏豊」60号発行、おめでとうございま

これは高女1回生の先輩の方が礎を築いてくださった上に、各回の卒業生幹事の皆さんのたゆまぬ努力と協力を惜しみなく働き続けてこられたおかげで、今日(ここに)「柏豊」があると思います。

「柏豊」の編集作業は幹事会で話し合いながら内容をまとめていく、という方法は、おそらく今も変わっていないと思いますが、昔の発送作業は大変でした。私がかかわった頃は、封筒の宛名は手書きで、名簿係の方々が自宅で書いていました。「柏豊」が出来上がる日に集まり、一日で仕上げられる出来事だけに間に合わない、それぞれ同級生を誘って大勢で作業しました。まずは封筒に入れるため、柏豊誌を三つ折りにする。ただ、三つ折りと違って8

ページのものは4枚重ね、それを2回折つて一つの封筒に入れる。手で折つたものは広がり易く、封筒に入れるにくい。そこで考えたのが、ガラスのコップの底を折り目にあてて強く押しながら引く。ピシッと折れて封筒に入れ易くなるのです。

次に良くなったことは宛名印刷機ができて前もってシールに宛名や卒業年時を記録し、宛名書きが楽になったこと。数年後には、印刷屋に「柏豊」を三つ折りにして納めてもらい、折ることがなくなり、作業がぐつと早く出来るようになりました。今はどのようになっていますか。

また、「柏豊」を作るにあたり、少しでも費用を捻出するため、広告をとって紙面に載せる。手分けして、卒業生の縁をたよって尋ね、広告をいただく。先輩方は快く引き受けてくださったもの、あまり好きではなかったもの、50周年行事が終わってからは広告とりはなくなりました。

「柏豊」担当になってもう一つ変えたことは、当時、同窓会親睦会は5月の第2日曜日、「母の日」に行われるので、「柏豊」は会員に4月中に届くよう発送してしまっていました。4月の第2日曜日に同窓会総会を終えたから「柏豊」の紙面を整えて、印刷屋に出し、4月中に発送することがとても大変なことなので、とうとう親睦会の日を、遅くずらすようお願いしました。高女時代は女性ばかりでしたから、母の日にする意義はありましたが、共学となって久しいので、6月第1日曜日へと変えて、「柏豊」の発送が5月に繰り上がり、編集に余裕ができて、ほつとしました。それは、今に続いています。

「柏豊」は、後輩の方が引き継ぎ、絶えることなくしつかりと続けてくださることに頼もしく、心から感謝しています。思い返してみると、同窓会の仕事は楽しかったことばかりが思い浮かびます。同じ学び舎で学んだこと、先生方との繋がりが、ほんの3年間のことなのに、今もって同窓であるという絆は強くしつかりと繋がっていると思っています。幹事である、なにかに限らず、どなたでも柏豊会に顔を出してください。毎月1回集まっていますとのことです。新しい出会いがあり、ご自分の世界が広がりますよ。

【倉島(吉田)須美子(高校8回)】

同期会 OB・OGだより

千早会Ⅲ (高女9回、高校2回)

平成27年2月4日

千早会Ⅲの第3回の集いを2月4日にホテルメトロポリタンで開きました。花崎先生をお迎えして出席者は37名、寒いなか元気な顔が集まりました。会場はホテル2階の「花むさし」昨年決めた形式で「お知らせ」の発送もなく、千早会として日時の予約だけの会合なのに皆さん1時半を待ちかねて集合されました。世話係としては何名出席されるかと、多少の不安もありましたが、昨年とあまり変わらない方々が揃い「私達は元氣ね！」と自画自賛。身体のだよかに故障があるのは当たり前ですが、7回目の干支が巡ってきた年令とはとても思えません(外見のことではありませんが)。いつも通り賑やかに話が弾み楽しい2時間でした。今後もこの形式で次の通り続けることに致します。



- ① 日時は今迄通り毎年2月第1水曜日、午後1時30分からです。千早会として日時の予約だけです。
 - ② 場所はホテルメトロポリタン 2階「花むさし」
 - ③ 「お知らせ」は発送しませんので誘いあつてお出かけ下さい。
- 一番寒いこの時期に何故?という声も

多いのですが、会場の都合などもあり来年は2月3日です。又元氣にお会いしましょう。一年に一度の顔合せが続きますようにと願っております。

【世話係一同】

高校8回生同期会

平成26年10月19日

於・大塚駅前
ベルクラシック東京

秋の一日、喜寿の会が開かれました。「元氣でお目にかかれて嬉しい。」あちこちのテーブルから聞かれました。昭和31年3月3日卒業して58年経ちました。若い私たちを豊かに育ててくださった母校に感謝しています。

想い起せば、3年の春、京都組と小豆島組に分かれて修学旅行に行きました。京都組の先生のお話です。「あの舞妓うつつときれいだね」と。そして辛からずたのは、小豆島組の紫雲丸沈没事件です。前日同じ旅館に泊まった小学生、先生方168名の方の死亡でした。私はこのニュースを小豆島のバスで聞きました。東京では、大騒ぎでした。

近年、親しくしていた8回生友人を相次いで亡くしました。卒業以来初めて参加された方とも一緒に元氣で乾杯できました。「またお会いできますように。」の言葉で散会しました。



【中尾(岡本) 憲子記】

高校9回生同期会

平成26年11月12日

於・ホテルメトロポリタン

2年ぶりの同期会。前回に続いてメトロポリタン池袋で開催。メンバーの我々も後期高齢になった事もあるのかさらにはドタキャン数名の影響もあり出席者が前回の60数名から今回は44名とちょっと淋しい。

思い起せば数十年前のスタート時には100人前後の参加で大賑わいであった事もあり、今では懐かしくもあり寂しくもあり有り。そして昨今では歳と共に我々周辺の事情も変わりつつあり、介護なども親御さんから自分たちの連れ合いや自分自身の心配事になりつつあり、会の開催にも少なからず影響が出ている。しかし世間では百歳を超えた御長寿も万人を超えるご時世であれば、我々などまだまだ鼻たれ小僧、頑張らなくちゃ。学校の同期とは有り難いもので数分の出会いで、即、半世紀前にタイムスリッ

プ出来る。何時もそんな感じに会場のあちこちで話の輪が広がりが大いに盛り上がっている(昨今皆声がやや大きくなってきているのが気になるが)。そして話題はもつばら老化と病といったところか?(しかしこれもまた同年のよしみで話し易い事ではあるが。そして最後のメは、この永遠の良き友の生みの親である母校に感謝の気持ちを込めて校歌を斉唱。あつという間の3時間を縮める。

数年先を待たずに来年の開催を約してお開きに!

【篠崎 繁記】

高校10回生同期会

平成26年9月25日

於・東武ハンケットホール

中国の深圳(しんせん)から帰国のT・Iさんの日程に合わせて、30年前に初めて同期会を開催した思い出の場所、池袋東武ハンケットホールにて4年ぶりの同

期会の開催です。米寿を迎えられた銀林先生も大変お元氣で小田原から遠路ご出席いただき、40名の出席でした。残念なことに、欠席の返信の中に何人もの計報があり、特に今年は、永い間幹事だったY・Mさんが8月4日に、また同じく4組の幹事をして頂いたT・Yさんが同期会前日の9月24日に亡くなるなど誠に寂しいかぎりです。

そんな中での懇親会で、いつもと違いはじめはしみみりした雰囲気でしたが時間の経過とともにいつもの昔に帰って東日本大震災の復興の話題や福島原発のは非、また政治のことやら経済問題・孫の話など賑やかで最後は健康の話題で締めくくりとなりました。

アツという間の2時間でした。これからは毎年開催してほしいとの要望が多く出されましたが、今回は皆が喜寿の年、そして銀林先生が卒寿の年の2年後に開催ということで散会となりました。我々幹事ももう少し頑張らなければ!

最後になりましたが柏豊会の益々の発展をお祈りいたします。ごきげんよう!
【代表幹事T・K記】

豊島十四会同期会

平成26年6月1日

於・豊島高校

豊島十四会(昭和37年卒)の皆さんお変わりありませんか。

今年には地球温暖化の影響が、自然災害のオンパレードとなり心安らかな日常を過ごすには、チョットしんどい年となりましたね。お近くの身内の方・知人の方にこの災害に巻き込まれた方はおりましたか。そんな中でも古稀を迎えた豊島十四会



を開催いたしました。(通算では9回目) 毎回のごとく柏豊会の助けを借り、6月の初夏の気持ちの良い暑さの中25名が参集しました。オリンピック年に開催している本会とは異なり、母校の懐かしい雰囲気の中で、在校生のブラスバンド部の迫力ある演奏・若い卒業生のキビキビした態度に、大先輩の何時までも若々しい姿に接し、また思い切り歌った校歌の大合唱に、「まだまだ負けられないぞ」との思いにさせられました。そのあとは近くのレストランに席を移し、飲み足りなかつたピストルのグラスを片手に思い出話の花を咲かせました。

次回は2年後のブラジルオリンピックの年となります。沢山の参加をお待ちしております。

【豊島十四回幹事一同】

三九会 (高校16回同期会)

平成26年11月1日
於・東武バンケットホール



皆さんお元気ですか。昭和39年に高校を卒業して半世紀を迎えたのを契機に11月1日懇親会を開きました。会場を迷子が出たはずのない池袋東武百貨店14階バンケットホールに設定、それでも今度は日付を間違えた同級生があらわれ、参加者は48名、幹事挨拶の時こそかしこまっていたが、何のことはない遠方からの参加者による乾杯後は、まるで在学当時の様な楽しい語りが始まっています。不思議です。その時の写真がなくなりました。その時の写真は盛り上がり、設定した2次会まででなく、3・4次会まで行かれた方もおられました。皆で話し合い、今回で終わりにするのはなく、次の機会をつくる事

を決め散会しました。参加できなかった方は次のチャンスに是非ともご参加下さいね!

【お世話役・小川寛美】

高校21回3年1組 +αクラス会

平成26年5月25日
於・パセラリゾート池袋



昭和44年卒業して以来のクラス会を5月25日パセラリゾート池袋で開催しました。還暦を過ぎて45年ぶりに会う顔は、面影があつてもなかなか名前が出て来ない上に中東のカンドウラ衣装で現れ皆を驚かせた方もいました。

学生時代は東大紛争などデモに参加されていた方、社会人になつてからは団塊の企業戦士として海外赴任していた方、海外の工場を経営していた方、また現在は引退して悠々自適の方、まだ現役で頑張っている方、など様々な経歴の方が集まつて和気あいあいと楽しい時間が過ごせました。会場がカラオケルームなのに歌も歌わず3時間があつと言つて間でした。

今山崎達一郎先生も含めて1/3の方の消息が分からず参加されたのは14人でしたが、「次回は何と集めて開こうよ!」の声とともに参加出来なかつた方からも「次回は是非参加したい」との連絡が入つてホッとしました。社会人になる前の高校生から還暦を過ぎるまでには色々な事がありましたが、会えば青春時代に戻れる友達の素晴らしさを痛感しました。

【武田 清記】

高校41回生同期会

平成26年4月4日
於・赤羽まるます家総本店



卒業以来初めての同窓会。何人集まるかも全くわからず手探りの状態から始めましたが、Facebook、LINE、メールを使い、徐々にたくさんの繋がりが復活しました。同窓会の最中にもさらに拡がりを見せ、今回欠席のメンバーからも「ぜひまた開催してね」という声多数。あの頃と変わらぬ盛り上がり過ぎた月日を忘れませんが、後日届いたありがとうメッセージではみんな立派な大人になつていました。次回もお楽しみに。

【幹事一同】

豊籠会だより (バスケットボール部OB会) 会長 大野 克之 (高校24回)

恒例の豊籠会総会・親睦会は3月14日(土)に開催しました。昨年は大雪の影響で出席者が少なくなつてしまつたので、少し遅めの日取りにしたのですが旅行や引越と春めいた事柄と重なつた方もいて、OB14名・OG4名の計18名の参加となりまし



た。総会では豊籠会会則の改定を14年ぶりに決議しました。25年前に新に会則が制定された当時は社会や学校の環境・個人の価値観等が大きく変化して必然的なことになり、今回は主目的として「幹事の選出」を変更いたしました。

決議した会則は平成28年1月1日より実施されるのですが、10月頃の幹事会までに幹事を選出する必要がありますので御協力をお願いします。

親睦会は同窓会(柏豊会)からご提供頂いた古い校舎の映像から始まりました。戦中戦後の木造校舎は昭和50年頃までに卒業した方には懐かしく、馬小屋と椰揄(やゆ)された体育館の写真は厳しかつた練習まで思い出させましたが、それはお酒の肴として笑える美味いひとときでした。

次に話題となつたのは、私の個人的な事で30数年ぶりに還暦を過ぎてバスケットボールに挑戦を始めたことでした。バスケットを始めて10期後輩などの話があり、そこが悪い、ここが痛いと言う方ばかりではなく、まだバスケットに未練がありそうな方がいらつしやる様で、来年には新たにバスケットを始める人が増えているかもしれません。

長年に渡り、豊籠会の開催場所でした豊島区勤労福祉会館ですが、来年は改築工事のために使用できません。ですから会場はわかりませんが開催日は2月下旬の予定です。

「現役部員の支援」と「会員の親睦」を目的に諸先輩から継続して来たOB会は、豊島高校で屈指の歴史があり、その意義を十分に感じる会です。多くの方の参加を心待ちしております。

豊友会 (バレーボール部 OBOG会)

2014年11月23日池袋東武14階のバケットホールにて、豊友会(バレー部 OBOG会) 50周年超の記念パーティーを行いました。

野志先生や多くの大先輩方から卒業して間もないOBOGまで多くの方がお忙しい中、お集まり頂きました。総勢120名が一堂に会し、世代を超えた思い出話に大いに盛り上がりました。

50年以上の長きに渡り、築き上げてきた豊島高校バレー部の「歴史の重み」を実感するためにもこのような会を開催いたしました。

「歴史の重み」を感じるために、当日は歴代の「部活動集合写真」のバレー部のページを卒業アルバムから印刷して繋ぎ合わせた物を掲示いたしました。

「豊島高校バレー部」に在籍していたという共通点を感じ合せている物が「キズナ」だと思えます。近年では「豊友会」が消滅状態になっていました。

今回の開催をきっかけに、今後はより多くの「キズナ」が生まれ、より強い「キズナ」となるように運営していきたいと思えます。

今回の豊友会に残念ながら参加頂けなかった方、お引越など連絡が回らなかった方、今後毎月11月と3月には現役部員や顧問の先生方との交流を含めた「豊友会」を開催して行く予定です。現役部員に御指導して頂ければ、部員たちも喜ぶことと思えます。

豊友会会長 高校54回 倉田大地



「通信協力費」ご協力お願いします!

日頃は柏豊会事業にご理解・ご協力誠にありがとうございます。柏豊会では会運営維持・会報充実などに向け「通信協力費」を受付し、有効活用しています。昨年度もたくさんのご協力にお礼申し上げます。引き続きご協力をお願いいたします。

【幹事一同】

▼送金は同封振替用紙の利用をお勧めします。ゆうちょ銀行またはお近くの郵便局からどうぞ。

▼通信欄に、住所・氏名・

入金額・卒業回・クラスの記入を。

▼振替用紙は、毎年同封されます(一部の方除く)。先の方まで送金済みの方は、お手数ですが振替用紙は破棄してください。

▼同期会などまとめた入金金も可です。通信欄で詳細をお知らせください。

▼振替用紙以外でお振込の場合は、下記の口座にてお願いいたします。

※他銀行から送金の場合、同封の振替用紙は使用できません。

送金口座 (ゆうちょ銀行振替口座番号)
00150-7-403846

加入者名 (受取人)
柏豊会 (都立豊島高校同窓会)

*通信協力費として一口1,000円以上(千円単位)
*通信協力費は同窓生の任意で振込頂くもので、年会費や親睦会参加費等とは異なります。
*振替金の受領書をもって領収書に代えます。
*振替用紙上の個人情報(住所)は、柏豊会で厳正に管理します。なお用紙の保管は5年間とし、以後は裁断し破棄いたしますのでご了承ください。

4回生同期会一同より柏豊会に愛をこめて!

この度、高校4回より242,000円の寄付を頂きました。幹事一同深く御礼申し上げます。柏豊会の発展のために有効に使わせて頂きます。

4回生同期会は、昭和44年に第1回同期会を開催、以後節目毎に継続されてきたが、傘寿を超える歳となり、幕を降ろす次第となりました。

卒業60周年を祝うべく、幹事達が受け継いだ会費は、係りの手許に保管されたままでしたが、その後の幹事達の集まりで、「同期会残金」に賛同を得ました。

会費残金全額(242,000円)を寄付いたします。柏豊会発展のお役に立ちますことを願っております。

平成27年2月23日
代表 横木(早坂)澄子
加納(国分)美佐子

届いていますか? 会報は同窓生の「命綱」

現在、同窓会報「柏豊」は定期的にお送りする唯一の通信手段です。毎年約1万6千の会報を発送しています。が、うち若干が転居先不明などの理由で、お手もとに届かず会に戻ります。会報が戻ってきた場合、原則として以後の発送を止めています。いま一度、【あて先・お名前】の印字をお確かめください。

■印字が現在の住所・名前と違う方は柏豊会へご連絡ください。

■住所や名前が変わった時はご連絡ください。

■お近くで会報が届いていない方がいましたらご連絡ください。

■同期会幹事の皆様へお願い。皆様のところを、柏豊会にもご提供ください。皆様の個人情報(住所)は、柏豊会に決まらずに厳正に取扱っています。

【連絡先は11ページ下段参照】

【物故者】平成26年4月から27年3月までご逝去の連絡を頂いた旧職員・同窓生を掲載し、故人のご冥福をお祈り致します。(順不同・敬称略)

- 旧職員**
- 荒木(内田)豊子
 - 尾上知明
 - 雲居(小島)佐和子
 - 福島(豊田)智恵子
 - 古瀬敦
 - 吉田(中井)佳子
 - 同窓生
 - 多賀能(飛田)美栄子
 - 市川(銭谷)裕子(女一)
 - 山内(根岸)玲子(女一)
 - 辻本(森田)静子(女一)
 - 平野(村上)雪江(女一)
 - 上原(吉武)霽子(女一)
 - 日比野(中沢)光子(女二)
 - 伊藤(橋本)喜美子(女二)
 - 加藤(矢田部)みち(女二)
 - 吉満(根岸)文子(女二)
 - 浅野(勝沼)里子(女三)
 - 濱田(三岡)京子(女三)
 - 栗原(杉谷)禮子(女三)
 - 梅村(早川)綱子(女三)
 - 加川(池田)セイ子(女三)
 - 多喜(多喜)秀子(女三)
 - 見坊(藤井)和子(女四)
 - 小柳(丸山)昭子(女四)
 - 鈴木(鹿志村)たか(女五)
 - 服部伊楚子(女五)
 - 中野(山口)和子(女五)
 - 森谷(渡辺)美作(女五)
 - 山田(阿久沢)静子(女五)
 - 寺田(菅沼)せつ子(女七)
 - 森宏子(女七)
 - 渡辺(小島)徳子(女七)
 - 橋本(青木)文子(女七)
 - 船水(和子)節子(女八)
 - 内藤(桜井)節子(女八)
 - 近藤(近藤)和枝(女八)
 - 篠崎(土屋)和子(女八)
 - 村松基伊子(女九)
 - 山本(大川)量子(女九)
 - 新井(西村)洋子(女九)
 - 矢嶋(吉田)寿子(女二)
 - 白石(田原)和子(高二)
 - 篠崎美保子(高二)
 - 武田(木村)喜久子(高三)
 - 玉井(関)恭子(高三)
 - 山岸(原)照子(高三)
 - 三浦(加藤)千代(高三)
 - 田山(佐久間)みよ子(高三併)
 - 菅沼和子(高四)
 - 大谷(小川)輝子(高四)
 - 高師広子(高四)
 - 森澤(横瀬)玲子(高四)
 - 吉村(飯田)弥生(高五)
 - 木野美智子(高六)
 - 飯島國男(高六)
 - 森谷(紺野)泰子(高六)
 - 木村(小野寺)靖子(高六)
 - 小澤(片桐)恵代子(高七)
 - 関井(木代)恵美子(高七)
 - 秋山荻子(高八)
 - 富岡(白井)文子(高八)
 - 松本(鶴見)美子(高八)
 - 伊藤(渡辺)正子(高八)
 - 木村(広田)美代子(高八)
 - 篠原(小林)佳子(高八)
 - 軽部(佐藤)光代(高八)
 - 嶋功(高八)
 - 青山(長縄)ミツ子(高十)
 - 柳沢武久(高十)
 - 松沢(伊東)安江(高十)
 - 川鍋隆三郎(高十二)
 - 北堀(峰岸)總子(高十二)
 - 山崎(竹内)光子(高十二)
 - 桑原(永井)志津子(高十三)
 - 橋本裕臣(高十三)
 - 長谷川右一(高十五)
 - 武石正夫(高十五)
 - 仲条(二階堂)房(高十五)
 - 林春代(高十六)
 - 守屋秀久(高十八)
 - 三好(宮下)和子(高十八)
 - 杉本正郎(高二十)
 - 石塚(佐藤)悦子(高二十四)
 - 加藤麻由(高四十三)
 - 伊藤麻奈美(高五十三)
 - 佐野佳織(高六十三)



布絵『ざくろ』



佐藤(富岡)美奈子さん
(高女3回)

母校では芸術方面に数々の卒業生の皆さんが活躍をされていますが、今回は昨年、米寿記念の個展を開催された佐藤美奈子さん(高女3回)の水墨画や布絵をご紹介します。佐藤さんは、高女の頃から書をやっていたそうですが、本格的には昭和48年に本間伯亭に入門されたのを皮切りに、その後は伯亭の師である宮本竹逕(ちくけい)に入門、書の道を究められました。昨年までは、師範として教えていたそうですが、温泉などに行く時間をもちたいとのことで行引退したとのこと。

よい師、よい友人に恵まれ今日に至りました。全く有難いことと毎日感謝をしてすごして居ります。

水墨画の世界では、馬驍(まきょう)に師事、馬驍夫人にも指導を受け、その実力は平成6年にロサンゼルス日中水墨画交流展銅賞を受賞するほど。現在も、馬驍夫妻との親交を深め、水墨画の制作をされています。布絵は現在ではご自身でやっておられ、頻繁にはさみを使うため、腱鞘炎になるほどのこと。また、この他に50年あまり草月流も続けておられ、一級師範の免状を出せるほど。現在でも月2回小学校でお花を教えているなど、精力的に活動をされています。そして、その多彩な芸術活動の集大成ともいえる個展を昨年8月に鳩居堂画廊にて開催



催。大勢の来場者がいらしたそうですが、「同期の方がお見えにならなかったのが残念」とおっしゃっていました。現在は、娘さん一家とご一緒に暮らしており、最近誕生された曾孫さんの成長を楽しみにしていらつしやるとの由。いつもまでもお元気でご活躍されることを心よりお祈りしております。

【略歴】	昭和48年	本間伯亭に入門	文化書道で師範をとり入門
書	昭和50年	伯亭の師である宮本竹逕に入門	
	平成9年	読売書法展かな部特選	
俳句	昭和51年	「秋」石原八束主宰入会	
	昭和57年	「秋」北海道大会特選	
	昭和57年	奥の細道羽黒山全国俳句大会特選	「秋」同人
水墨画	平成5年	馬驍会入門	馬驍夫人王荻地にも指導を受ける
	平成6年	ロサンゼルス日中水墨画交流展銅賞	
布絵	平成7年	宮脇綾子の弟子だった鈴木花に入門	
	現在に至る		

編集後記

◆今回会報は60号を迎えることが出来ました。これも高女第1回の先輩から脈々と受け継がれてきた伝統の証しであると思います。温故知新とはまさにこの事です。元編集長の倉島さんの手記からも当時の苦勞をうかがい知ることが出来ました。もう少し詳しくお伝えしたかったのですが、紙面の都合上、このような形になりました。会報の歴史については、9月母校文化祭の「同窓会サロン」にて、ご紹介できればと考えております。◆「東北復興幸祭」という東日本大震災の被災地の高校生がフランス政府の後押しを得て企画運営するイベントがあり、これを支援する小宮山前校長に賛同し、柏豊会も学校と連名で寄付しました。イベントは昨年9月、エッフェル塔も望めるパリの公園にて開催、そこでは寄付の御礼として柏豊会の名前入りの提灯も掲出されました。

柏豊60号

2015年(平成27年)5月15日発行
© 柏豊会 2015 / 本誌は非売品です

【注意】掲載情報の二次利用及び本誌の転載・複製等を厳禁します

制作・著作 柏豊会
(第十高女・豊島高校同窓会)
〒171-0044 東京都豊島区千早 4-9-21 豊島高校内
会長 鈴木優子
TEL 090-4228-8758 FAX03-3972-4037

印刷 同窓会事務局

《会報編集委員》

尾崎	三重	綿貫	昌子
恩田	豊一	森森	淳子
木村	太一	大平	正仁
小泉	恭昭	中澤	保命
豊島	宏之	赤坂	
野木	淳子	本岸	